

オホ

た。子三折裂ぎ、綱紀に仕へて大坂着米四百俵を賜はり、元祿七年六十二歳を以て歿。嫡男慶安は、初め五人扶持、後に三百石を受け、享保二年歿。その嫡男に玄吾敬之があつて、十人扶持を賜はり、安永二年歿。その子に三哲があり、三哲の子玄東は後に名を慶庵と改めた。

オホイシモクノスケ 大石木工助 父を幸典軒といひ、武藏八王子に住して北條氏政の臣であつた。木工助は天正十八年來つて前出利家に仕へ、四百五十石を受け、慶長五年八月大聖寺の役に従うて功があり、寛永三年江州大津に於いて歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

オホイチ 大市 能登の古驛。オホチと訓んだのであらう。日本後紀に『大同三年冬十八丁卯癸能登國能登郡越蘇穴水風至郡三井大市待野珠洲等六箇驛。以不粟二也。』とあるものであるが、その位置は今不明である。しかし距離からいへば、和名抄に謂はゆる男心郷のあたりと思はれ、或は輪島であらうといふ説もある。

オホイチ 大市 能奥の地では物資の供給が不便であつたから、毎年秋收の頃加賀・越中の商人が隊を爲し、輪島・富來・宇出津・門前・穴水の順序に、各所七日間許の露店を開き、之を大市といふた。

オホイツミシヨウ 大泉庄 ↓オホミシヨウ 大海庄。
オホイリキノミコト 大入杵命 崇神帝第七の皇子。古事記に、御眞木入日子印惠天皇の御子大入杵は能登の祖とある。御眞木入日子は崇神天皇である。

オホウチ 大内 ↓シンノウツカ 親王塚。

オホウチガハ 大内川 ↓オホウチ 江沼郡奥山方に屬する部落。此の村に館址があつて、長享の頃大内左京亮の居た所であるといふ。

オホウチタウゲ 大内峠 江沼郡大内の郡領の火燈山から出で、我谷領の落合に至つて大聖寺川に合する。

オホウラ 大浦 河北郡鞍月庄に屬する部落から、越前坂井郡山竹田に通ずる峠。高さ二九八米。

オホエヒロカタ 大江廣方 家世々江沼郡菅生石部神社の神職であつた。廣方號は藤街。少にして聰敏、性理の學を好み、上洛して伊藤平藏の門に學び、學成つて郷に歸つた後暴に病んで歿した。年三十六。

オホエミヨウジン 大兄明神 加賀國內神名帳に、仁平二年如月神降を従五位上に昇せられたと記してゐる大兄明神は、石川郡末松の末松神社であるといふ。明治四十二年附近の蘇八幡神社を合併して、社號を大兄八幡神社と改めた。この社の手洗鉢は、もと末松の西に在つて、唐戸石と稱したものを移したものである。石の高さ地上約一米二、略卵形で、その長徑約一米八、短徑一米五。表面中心から稍偏した所に直徑五八釐、深さ一〇釐、水平の底をもつ穴が穿たれてゐて、塔婆の心柱礎であつたものである。

オホカクチボウ 大垣内坊 ↓チヨウゲン 超玄。
オホガクマ 大角間 四至郡櫛比庄に屬する部落。
オホカサヤマ 大笠山 石川郡と越中東礪波郡に跨る山。高さ一八二二米。山體石英粗面岩。
オホガネドソウ 大銀土藏 ↓シンドゾウ 獅子土藏。
オホガネフギヤウ 大銀奉行 大銀土藏の出納を掌るもの。其の創置に就いては詳かでないが、寛文中板倉助大夫の命ぜられたのが始であらう。同十一年には榎田彦兵衛・平田三郎右衛門が之に命ぜられた。元祿三年よりは三人充であるが、夫より多かつたことも見える。

オホカハ 大川 鹿島郡酒井領の水・窪谷より流出し、同領で邑知瀨に入る。流程四軒。

オホカハ 大川 鳳至郡下町野郷に屬する部落。天正八年六月朔景隆・長盛連署の宛行狀に大河分と見える。能登名跡志に『此村の磯に養經の舟隠しとて、奥知れぬ大洞あり。二町許りは舟をさし入るゝ也。それより奥は暗くて知れず。又唐竹の御殿あり。御塩藏あり。此村は町野川の濠にあれば大川の名あり。川の向は曾々木也。』とある。

オホカハバタ 大川 ↓マチノガハ 町野川。
オホカハバタ 大河端 ↓オコバタ 大河端。

オホカハベリ 大河縁 ↓オコバタ 大河端。
オホカハラシロベエ 大河原四郎兵衛 助 右衛門の弟で子となつたもの。祿百五十石を

別を受けてゐた。大坂冬陣の役に十二月四日前出利常の軍眞田丸に迫つた時、敵の銃丸雨注し、我が銃隊長大河原助右衛門亦之に殲れた。四郎兵衛大に憤激し、進んで鎧の胸を叩き、城兵に呼んで、今の死んだ者は我が父であるから、請ふ共に黄泉に至らしめよといひ、亦銃丸に中つて命を殞した。利常乃ち二人の知行合はせて八百五十石を四郎兵衛の弟助右衛門に與へたが、寛文十一年歿した時跡目相續者を定めずして断絶した。助右衛門の子三郎左衛門河合氏を稱して浪人し、その子助進長賢は樺大學に寄食してゐたが、元祿十一年藩は再び召出して新知五百石を與へた。

一一八

オホカハラナガカタ 大河原脩賢 初祿脩德。通稱長平。彌左衛門・八郎左衛門。父は八郎左衛門長博。元祿十二年遺知二百石を受け、享保九年大小將横目から次第に昇進して御小將頭に至り、寶曆七年百五十石を加へ、同年十月廿七日六十六歳を以て歿した。

オホカハラナガヒロ 大河原長博 通稱八郎左衛門。父は長貞。天和二年遺知二百石を

仕へて二百石を受け、御使番・開番等に任じ、天和二年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。